

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5 年 4 月 24 日

公表:令和 5 年 5 月 5 日

事業所名 ウィズ・ユー京成大久保

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		机の配置を直した方がスペースが広く使える。机の位置を考えながら、広く使えるようにしていく。
	2	職員の配置数は適切である	4	3		送迎関係もあり、パートを増やせたらいい。更なる児童指導員の配置が必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5		トイレの前の段差が注意が必要。子どもの生活基準に適切しており、現在はバリアフリー化の必要はない。段差など、配慮が必要な児童は適宜、対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		療育目標の共有をもつとする必要あり。支援のやり方を適宜、職員同士で確認をとりながら、対応していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		今後は1年に1度必ず調査を実施していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2		外部評価を行っていない。連絡がきた場合、対応していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		研修の回数が少ない。研修を必要な時に、行えるようにしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	利用する前に、アセスメントシートを書いてもらっている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	職員同士で、話し合っ決めていく。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	曜日で、活動が重ならないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	活動に関して、会議を頻繁に行っており、年間、月間、週間とそれぞれ計画を念入りに作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	活動を行う際、その日の活動ごとにリーダーを決めて、事前に内容やスケジュールを共有している。	学休日などは、時間が取れない。学休日の時は、適宜、職員同士で確認をとりながら、対応していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2		支援の振り返りは行っているが、残業になってしまう為、支援終了後の打ち合わせは行えない日もある。代わりに午前中に会議を行い、振り返りやその日のスケジュール調整を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	療育記録をとり、職員間で共有して、支援につなげている。	会議で議題に取り上げ、支援の共有や改善点など今後につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	2		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	1		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		管理者及び児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)や、保護者との連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	保護者より、学校からの情報を受けて対応したり、担任の先生と情報共有をしている。 また、帰りの送迎時には、送迎前に予め、ご自宅の到着時間を、メールにてお知らせしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2		現在、医療的ケアが必要なお子様のご利用がないため、行っていない。 今後、医療的ケアが必要なお子様のご利用される場合、適宜対応していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		情報共有を行っている事業所はあるが、一部の為、今後は全ての事業所と情報共有ができるように努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2		卒業し、障害福祉サービス事業所へ移行した者がいないため、提供は行ってないが、卒業される場合は、情報提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3		公園など公共の遊び場において、一緒にサッカーや野球などのスポーツを行えるように取り組んでいる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		保護者との連絡は密に行っている。職員間でも常にミーティングを行っており、児童の状況や課題について共有している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1		職員が受講したペアレント・トレーニングの内容を支援を通して紹介している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		契約時に加え、その都度質問事項に対し、適宜応答している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	ご利用日以外でも、電話やメールで相談を受け付けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4		必要がないと思われる。 父母の会や保護者会等が必要になった場合、対応していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		苦情があった場合、内容を把握し、対応の体制を整備しつつ、子供や保護者に周知し、迅速に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	毎月、活動予定等の会報を発行して対応している。	
	35	個人情報に十分注意している	7	0		充分注意をしているが、今後も気を引き締めて対応していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		事業所を開設して1年半であるため、今後、地域との交流も視野に事業運営を行っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3		現在、マニュアルを作成中である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	児童の活動にも、毎月避難訓練を取り入れて、習慣にしている。	毎月、児童も含め、避難訓練を行っている。今後は、消防署へ出向き、AEDの取り扱いについての訓練を行うなど、非常災害時に必要な訓練や準備も行っていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		虐待防止委員会を1～3ヶ月ごとに開催し、ヒヤリハット事例などを議題に取り上げ、共通理解や抑止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1		現在、身体拘束は行っていない。止むを得ず身体拘束を行わなければならない児童がいた場合、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		おやつも含め、食事をする際は、必ず児童の調書を確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0		常にミーティングをしており、その都度振り返りを行っている。